

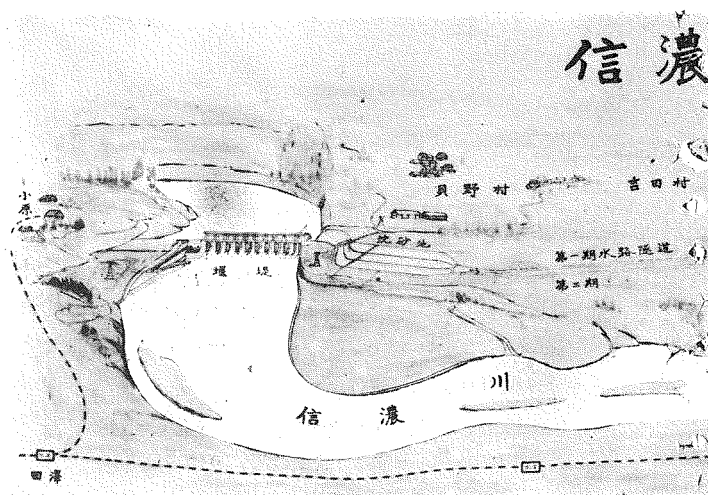


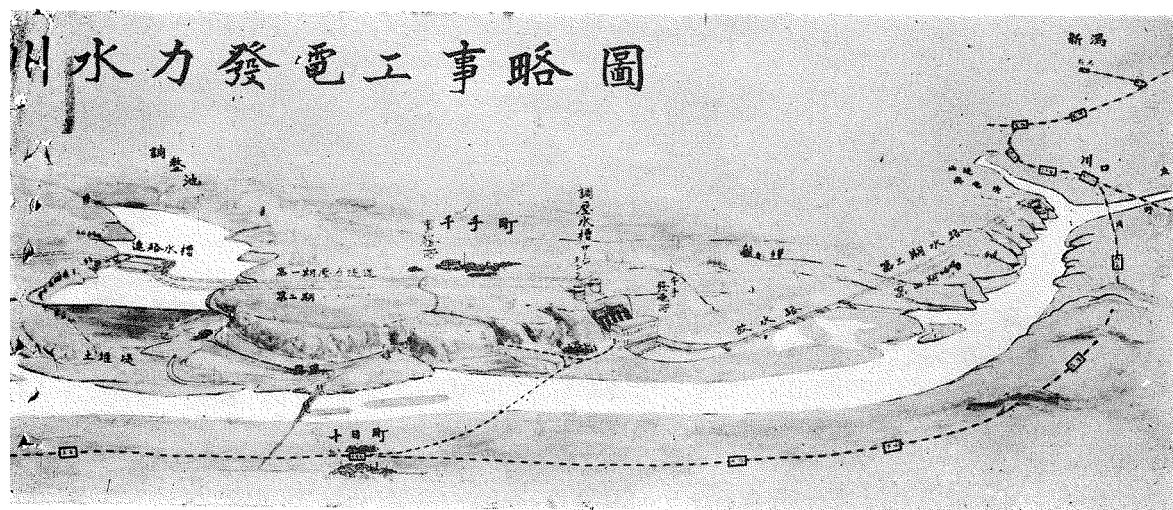
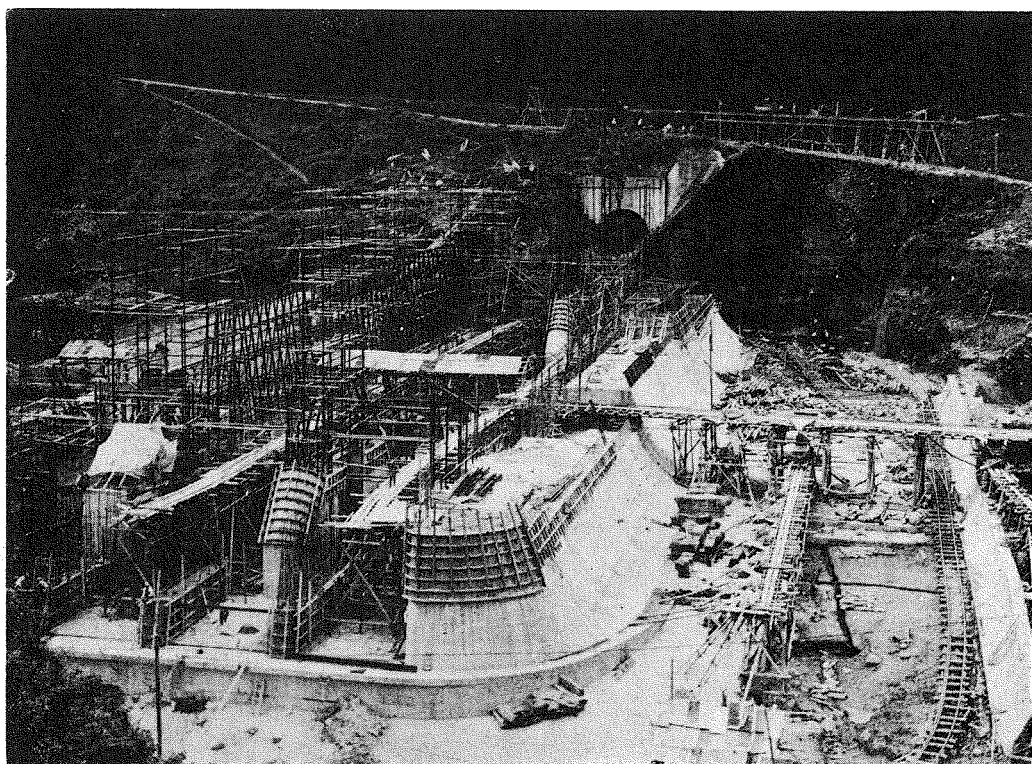
2. 調整池土堰堤

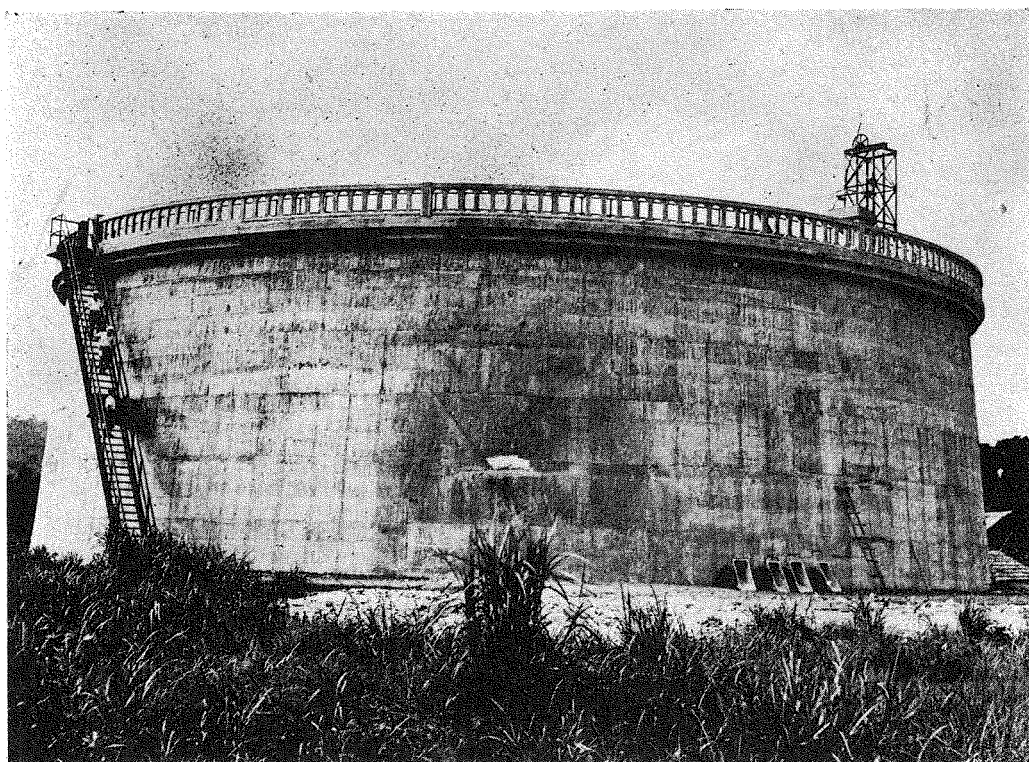
浅河原溪谷に高さ40m、長さ328.5mの土堰堤を築造して調整池を設ける。満水面積は143,000平方メートルで、有効貯水量952,000立方メートルである。目下施工中で昭和16年度に完成の豫定である。

3. 連絡水槽

連絡水槽は調整池内水路隧道に接続して設け、幅39m、長さ132m、深さ20mの鉄筋コンクリート造で、2條の水路に接続される。目下省直轄を以て施工中である。





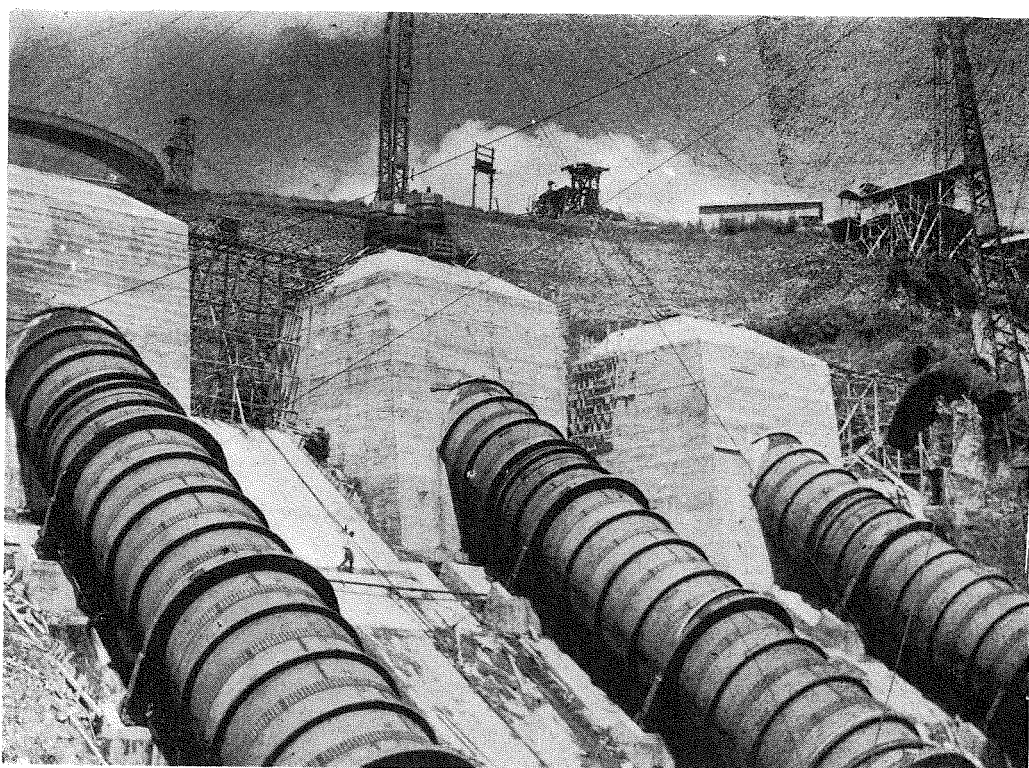


4. 千手発電所調壓水槽

壓力隧道1條に付1個の調壓水槽を設ける。圓筒形の手働式調壓水槽で、内徑33m、高さ32.5mである。水槽中心に壓力隧道と直結する内徑6mの圓筒ライザーを設く。第1期線1條の分は既に竣工した。

此水槽は發電急停止の際に起る水壓隧道内

の水衝壓を防止するのが主なる目的で發電所の全負荷が一時に停止されても溢流を起さず又調整池の低水時に半負荷が急に全負荷に増加しても安全である。水槽周壁及ライザー壁とも鐵筋コンクリート造で高さの約3分の2は地下にある。

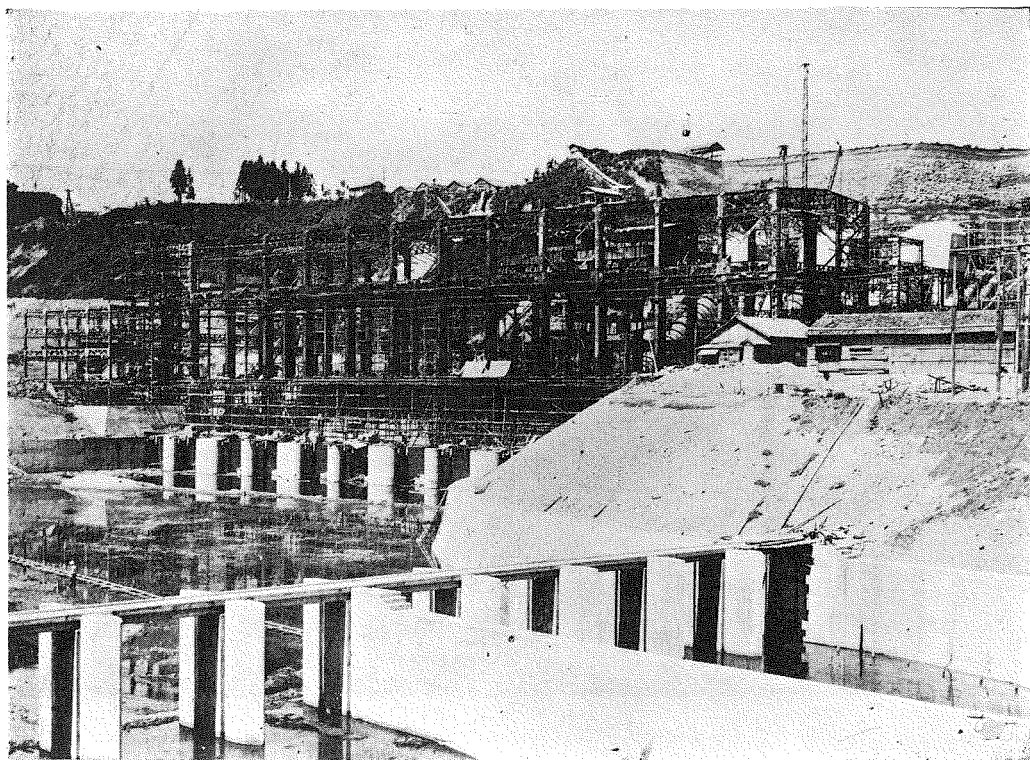


5. 水 壓 鐵 管

壓力隧道に接続して設け、内徑 6.7m の水壓鐵管より漸次分岐し、内徑 4.8m の鐵管 3 條となる。2 條の壓力隧道より分岐する 6 條の鐵管の内 2 條は Y 字形に接続せしめ主鐵管 5 條とする。分岐したる主鐵管は漸次徑 4.5 m に漸縮して發電所に入る。

別に内徑 1.4m 乃至 1.3m の所内水車鐵管 2 條及内徑 0.5m の冷却水用鐵管 2 條を各主鐵管より分岐せしめ、主鐵管と並列配置する。

第一期工事に於ては主鐵管 3 條、所内水車用鐵管 2 條及冷却水用鐵箱 2 條を設置するもので、此第一期分は略竣工した。



6. 發 電 所 建 物

鐵骨鐵筋コンクリート造り近代様式の建築である。發電室は長さ114m 幅26m の2階建で、下階は水車室、上階は發電機室及開閉器室である。この山側に接続して4階建の配電盤室、又南側に接続して4階建の事務室を設ける。

發電室には水車と之に直結せる5基の各々

31,000K.V.A.の發電機を設備し、尙200 噸の天井起重機2臺を設置する。

目下建物鐵骨は竣工し壁コンクリート施工中で、主水車、主發電機は据付中である。

又變壓器、送電用開閉設備等は基礎工施工中である。

— 終 —